特別養護老人ホーム 深草しみずの里

利用者お一人おひとりに相応しいオーダーメイドケアを目指して!!

特別養護老人ホーム　深草しみずの里
施設長　**渡邉　茂**

＜施設概要＞

法人名	社会福祉法人　弥勒会
施設長	渡邉　茂
管理者	渡邉　茂
所在地	〒612 － 8431 京都市伏見区深草越後屋敷町１７番地の５
電話	０７５－６４６－１００１
ＦＡＸ	０７５－６４１－７０２７
事業内容	○特別養護老人ホーム 110 名（11 ユニット） ○短期入所施設 10 名　（1 ユニット） ○通所介護 30 名

深草しみずの里は、社会福祉法人弥勒会が運営する３つ目の特別養護老人ホームとして、深草の京都市消防学校跡地に建設され、平成２８年２月に開設しました。また同年４月から併設して開設された京都リハビリテーション病院と介護老人保健施設「深草京しみず」との３施設からなるトータルメディケアゾーン「ケアフルヴィレッジ伏見しみずの郷」として、医療･福祉･介護の連携による充実したサービスを提供し、地域包括ケアの一翼を担っていくことを目指しています。

ユニットケア方式の特養は、プライベートな空間である個室と社会生活を営む場である共同生活室を備え、利用者の方がこれまで在宅において営んでこられた生活習慣をできるだけ長く続けていただくために、お一人おひとりの生活リズムに沿ったオーダーメイドケアの実現に向けて、職員一同個々のスキルアップを図りながら、ユニット毎の独自性を出そうと奮闘しております。

介護職の４分の１に当る１５名が今年の新卒採用職員のため、プリセプター制度や OJT を導入した実地指導を行い、漸く単独夜勤がこなせるようになってきたところです。８月現在９０名の方が入所されておられ、短期入所も順調に推移しておりますが、今後は早期の入所満床を達成し、利用者の方はもとよりご家族様との交流を図れる各種行事・レクリエーション等への取組みを充実させていきたいと考えております。

今後とも皆様方からのご指導ご鞭撻宜しくお願い致します。

一般社団法人　京都市老人福祉施設協議会
600-8127　京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町 83-1
ひと・まち交流館京都４階
TEL(075)354-8743・FAX(075)343-6270
発行人　会　　長　山岸孝啓
編集人　総務委員会　石田昌男・伊藤禎哉

「第６期京都市民長寿すこやかプラン」の着実な推進に向けて

京都市保健福祉局
局長　**髙城順一**氏

平成２８年４月１日付けで、保健福祉局長に就任いたしました髙城順一でございます。

日頃から、本市保健福祉行政、とりわけ高齢者福祉行政の推進に格別の御協力を賜っておりますことを厚く御礼申し上げます。

山岸会長をはじめ、一般社団法人京都市老人福祉施設協議会の皆様におかれましては、高齢者お一人おひとりの健やかで尊厳ある暮らしのため、日々、利用者の皆様や御家族に寄り添いながら、温もりのある質の高いサービスを通じて、安心と笑顔をお届けになられていることにつきまして、深く敬意を表します。

また、ユニットケア研修や介護の日記念事業、特別養護老人ホームの経営や施設ケア等に関する調査研究、さらには介護人材の育成・確保等の取組を担っていただくと同時に、貴協議会と本市によるプロジェクト会議をはじめ、あらゆる機会で本市施策に様々な御提言をいただくなど、本市の高齢者福祉施策の推進に多大なお力添えをいただいております。

とりわけ、平成２７年度においては、介護の担い手の確保や定着に向けた取組として、介護の日において写真パネル展の実施や、本市と京都府が主催した「福祉の祭典 in きょうと」における未就業者層への情報発信、さらに、新たに入職される職員に対するモチベーションの向上と各施設間の連携の強化を目的として本年４月に開催した合同入職式等、新たな取組を開始されました。貴協議会の皆様が、日々、各職場において多忙な職務を果たされる中、熱意をもってこれらの取組に尽力されていることに、改めて感謝申し上げます。

さて、国においては、「介護離職ゼロ」に向けた各種取組の議論を経て，特養とその他施設の合築に係る整備補助金の上積みや、介護職員の負担軽減に資する介護ロボット導入促進事業をはじめとする新たな事業について、平成２７年度補正予算及び平成２８年度予算において措置されております。

本市としても、これら国の施策も積極的に活用し、「第６期京都市民長寿すこやかプラン」に掲げる施策・事業について着実な推進を図ってまいります。

平成２８年度の本市保健福祉局予算については、貴協議会をはじめとする多くの関係団体の皆様の御要望を真摯に受け止め、市民のいのちと暮らし、安心・安全を支える施策を持続的に実施していくための予算編成を行い、高齢者福祉分野においては、介護基盤整備や地域包括ケアの推進に向けたサービスの拡充等に必要な４９３億円の予算を確保いたしました。引き続き、本市保健福祉行政の推進に一層の御支援・御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、貴協議会のますますの御発展、並びに皆様の御健勝、御多幸を心からお祈り申し上げます。

京都市老協における熊本地震支援活動報告

一般社団法人　京都市老人福祉施設協議会
副会長　**橋本　武也**
（同和園）

平成 28 年 4 月 14 日、16 日未明に発生しました熊本地震では、現地の高齢者福祉施設も甚大な被害が出ました。熊本県益城町の介護老人福祉施設　ひろやす荘もその一つでした。

市老協の会員施設の同和園が全国の有志施設と「くまモン支援チーム」を作り、ひろやす荘さんと連絡を取り介護職員の派遣要請を受けたことから始まり、市老協として災害支援をできないか急きょ正副会長会議で検討し、当面は市老協有志施設で支援を行うことを決定し、支援調整を同和園が担いながら 4 月 23 日～5 月 22 日まで介護職員の派遣支援を行いましたのでご報告させていただきます。

日　程	人数	支援元施設
4 月 23 日～ 4 月 29 日	3	長楽園 1 名・同和園 2 名
4 月 28 日～　5 月 4 日	2	同和園 2 名
5 月　4 日～ 5 月 10 日	2	同和園 2 名
4 月 30 日～　5 月 4 日	2	同和園 2 名
5 月 10 日～ 5 月 16 日	2	同和園 2 名
5 月 16 日～ 5 月 22 日	2	山科苑 1 名・東旺苑 1 名

1、人的支援（介護職員等派遣）内訳　支援派遣先施設：特別養護老人ホーム　ひろやす荘

2、義援金　市老協分　21 法人 2,441,385 円
　　近老協京都大会分　　117,581 円
　※８月１９日に山岸会長、橋本副会長、堀池事務局長で熊本県老人福祉施設協議会を訪問、鴻江会長、跡部副会長、野田副会長にお渡しをしました。

3、京都府 DWAT 隊（災害派遣福祉チーム）への参加
　５月には、京都府より初の DWAT 隊に出動要請があり、市老協からは、同和園竹田園長、嵐山寮井垣さん、市原寮中辻さんがそれぞれ避難所支援へと派遣されました。

【活動を振り返って】

今回の支援は厚生労働省が核となり都道府県などからの要請による公的な支援スキームが動き出すまでの民間による自主的な初動活動でした。実際にひろやす荘では７月いっぱいで支援受け入れと一般避難所機能もすべて終了していますが、その中で、京都市老協有志施設としては、公的な派遣スキームが動き出す５月中旬で派遣を終了しています。そのあとは、全国老施協が窓口となり九州、山陰地方が中心となり派遣を継続していたとのことです。ただ、国のスキームの中での派遣要請に対して、市老協のいくつかの施設も職員の派遣登録を行い、嵐山寮うたのから１名、嵐山寮デイから３名の方が派遣されています。

今回の派遣では、初動の４月２３日からの第１班が一番重要な活動をしてくれました。

メンバーは、介護職員２名（同和園）、相談員１名（長楽園）で長楽園の小林課長は、京都府の DWAT の研修修了者ということもあり、２３日から２９日までの間、ひろやす荘だけではなく、益城町全体の被害状況の把握と必要な支援調査のために本当に活躍してもらいました。特に、毎日送られてくる報告の LINE は、橋本が整理し「小林レポート」と題し厚生労働省老健局に送信して情報共有を図り、国のスキーム構築に役立てていただいていました。今回の地震では特に益城町が大変な混乱状況にあり、全国からの支援と現地でのニーズのマッチングがうまくいかず様々な問題が残りました。

また、同町では、地震の前に町内の福祉施設と福祉避難所の指定契約が取り交わされていたようですが、発災後は混乱していて、福祉施設に対して適切な指定指示が出ませんでした。特にひろやす荘は１４日の最初の地震から地域住民がひろやす荘に避難して来られ、応急処置などを施設の看護師が担っていました。

１６日の未明の地震後はいっそう一般避難者が増えて、多い時では、２００人ほどが避難していたとのことでした。しかし、町から正式な避難所指定がもらえず、しばらくは行政職員の派遣や避難物資の配給もなかったとのことです。

幸い、全国からダイレクトに避難物資が届いたり、市老協のような有志の支援活動もあり何とかなったとのことでした。

このことから、京都でも今後の福祉避難所と一般避難所とのあり方や行政との連携の取り方など災害時のスキームを再検討する必要があると感じました。

京都市老協における熊本地震支援活動

京都を出発する第１陣の３名

支援の入った「特養ひろやす荘」支援者が寝泊まりしていた、ひろやす荘２F テラスのテント村

ひろやす荘を視察に来られた塩崎厚生労働大臣に市老協の支援活動を報告する橋本副会長

８月１９日にひろやす荘を訪問

８月１９日に熊本県老施協鴻江会長に義援金を贈呈する市老協の山岸会長

永田理事長、永田施設長ほか職員の方と記念撮影

平成２８年度　近畿老人福祉施設研究協議会　京都大会

一般社団法人　京都市老人福祉施設協議会
副会長　**溝口　武美**
（豊和園）

平成２８年７月２０日・２１日、「２０２５年へ向けて　高齢者福祉・介護の在り方を考える」をテーマに、近畿老人福祉施設研究協議会の京都大会がおよそ１，２００名の参加の中、盛大に開催された。

初日は、この１月に新装したロームシアター京都を会場に、**京都市交響楽団の「弦楽四重奏」**の演奏にて厳かな雰囲気の中幕をあけた。開会式典では主催者あいさつに続き、京都府・京都市・全国老人福祉施設協議会からのご祝辞をいただき、また情勢報告や永年勤続者への感謝状の贈呈も行われた。

続いて、講演①として医師で諏訪中央病院名誉院長であられる**鎌田實氏**から、「生きるってすばらしい～命・絆・仕事・生きがいを考える～」というテーマでご講演をいただいた。

ご自身がこれまで携わってこられた在宅医療の現場でのエピソードをまじえたお話をいただき、会場では思わず涙する光景も見られた。そして１０年後には介護難民が４３万人にのぼるとする試算にも触れ、これから先の高齢者福祉の重要性を強調された。２０２５年に向けての課題は多いが「あったかい」という気持ちがひとつの武器になるのでは、という言葉が印象に残った。我々介護に携わる者としての心構えを見つめなおす機会となる講演であった。

そして講演②では、京都出身の女優で、動物環境・福祉協会Ｅｖａ理事長の**杉本彩氏**から「人と動物が共に幸せに暮らせる社会を目指して」をテーマにお話しをいただいた。

ペットショップ等のペット関連業者の在り方など、現在の日本における動物をとりまく環境について、あまり普段は目にすることのないショッキングな写真も併せての熱いお話に命の在り方を改めて考えさせられた。また、「その国家の道徳レベルは動物の扱いによってわかる」とのガンジーの言葉を紹介された。

２日目は会場をみやこめっせへと移して分科会が行われ、施設介護や地域福祉、そして社会福祉法人改革や人材確保・育成など１０のテーマに分かれて、日頃の実践の成果や研究発表を中心に活発な意見交換が行われた。

ロームシアター京都

京都市交響楽団の「弦楽四重奏」

京都市長　**門川大作氏**

Eva 理事長　**杉本　彩氏**

諏訪中央病院名誉院長　鎌田實氏

懇親会　京都市長参加

『合　同　入　職　式』

社会福祉法人　七野会　法人事務局
採用教育担当部長　**齋藤佳代子**

昨今の福祉業界において**“人材の確保と定着”**は深刻な課題となっている中、市老協人材確保・定着部会では大学や養成校との懇談会等を通じてこの問題に取り組んできました。そして今年度、新規採用職員のモチベーションを高めるとともに職場への定着を促進することを目的とし、京都市の協力を得て第１回『**合同入職式**』を開催することができました。当日はリクルートスーツに身を包んだ新規採用職員をはじめ、27年度中途採用の職員や施設の先輩職員、施設長、ご家族の方々など総勢２９３名の参加者によりみやこめっせの１Ｆが会場を埋められました。

式は、**市老協 山岸会長**の挨拶で開会し、来賓として和服姿の**門川市長**から熱いメッセージをいただきました。続いて入職者代表として嵐山寮の木田悠太さん、京都福祉サービス協会の大谷碧里さんがこれから福祉の仕事に携わる熱い思いと決意を表明、その後全員で記念撮影をし、会場は大いに盛り上がりを見せました。

続いて**声楽家 青野浩美さん**による記念講演『**前例がなければ作ればいい**』を聴きました。青野さんは声楽家を目指してがんばっておられた矢先に原因不明の神経難病により手足が動かなくなり無呼吸発作に襲われ、やがて気管切開を余儀なくされました。しかし、自身の障害と向き合い、歌手への挑戦を続け声を取り戻され、今では多数の講演やコンサート活動を行っておられます。障害を持たれた方自身が語られる**“介護”**の話は説得力があり、改めて介護職がその方の人生に関わることに対して畏敬と喜びを感じずにはいられませんでした。

この後、**市老協 水内総務委員長**より、市老協の概要についての報告、続いて**シンガーソングライター堀内圭**三さんとこの日のために結成された**“ハートメッセンジャーコーラス隊”**による合唱が披露されました。ハートメッセンジャーは各施設の若手職員らを中心に介護の仕事の魅力を発信する広報担当として委嘱する市老協独自の取り組みです。福祉業界のイメージアップのため地域や学校などでの様々な活動を展開しています。この日の彼らをみて一人でも多くの新規採用職員が「私もハートメッセンジャーになりたい！」という思いを持ってくれることを願っています。

熱気に満ちた合同入職式は予定していたプログラムをすべて終え、**市老協 河合副会長**の挨拶で無事閉会しました。10月には合同入職式後に仲間が集まる場として「**フォローアップ研修**」も企画しています。

『高齢者福祉施設における人材の確保に関する懇談会』

社会福祉法人同和園　法人本部
人事総務部長　**佐賀　隆司**

今年で第９回を迎える「高齢者福祉施設における人材の確保に関する懇談会」が平成２８年７月２９日に新・都ホテルに於いて開催されました。

懇談会は平成２０年度より一般社団法人京都市老人福祉施設協議会（以下市老協）福祉介護人材プロジェクトが、平成２７年度からは市老協の部会編成変更により人材確保・定着部会が中心となり高齢者福祉施設における人材確保について、養成校等関係学校や、京都府、京都市、京都府人材サポートセンター、京都府社会福祉協議会等の関係団体との意見交換会からスタートしました。

前年平成２７年度懇談会の成果として、懇談内容を集約させて頂き「合同入職式」が執り行われることとなりました。福祉分野では比較的小さな法人が少なくないことから、市老協が一つになり京都市の協力を得て高齢者福祉を志している新入職員を迎え、一員になったことを肌で感じていただけるものになるようにとの思いで開催致しました。

今年度も懇談会を開催し、福祉系学生を高齢者福祉関係施設への就職へ結びつけるための課題や連携方法などを懇談し、また学生動向や傾向を知り福祉系養成校と「ともに育む」を視点に実施しました。

今回のテーマは「福祉・介護の育成と確保」～介護魅力発信のためにできること～と題して懇談会を開催致しました。冒頭に市老協活動紹介として栗原部会長より、合同入職式に参加された新入職員向けのアンケートの集計報告を行いました。報告の中では、就職先を決定するために最も重視した内容として、施設の雰囲気が支持を集めたとの報告がありました。一見非常に抽象的な内容でつかみどころがない表現ですが、そこにこそ各施設の魅力を発信できるチャンスがあると思います。最近は学生の就職活動の期間が短くなっています。

有名企業の様に名前だけで就職してくれる施設はなかなかありません。学生は実は限られた情報しかもっていません。もっとこちら側からアプローチして理解を深めてもらう機会が無くてはならない。親御さんの意見が学生の就職に影響を及ぼすとのご意見もあります。このように対象となる方だけでなく、それに関係する方への理解を促すこともとても大切なことです。京都府人材サポートセンターをはじめとするインターンシップや各法人での実習等での地道な活動が重要といえます。

引き続き懇談会を通じて、先生方にもご意見を頂きながら次世代を担う職員を確保育成できるような活動をしていきたいと思います。

特別養護老人ホーム ライトハウス朱雀

視覚障害高齢者にやさしい施設づくりを。

京都ライトハウス
施設長　小山恵美子

＜施設概要＞

法人名	社会福祉法人　京都ライトハウス
施設長	小山　恵美子
管理者	小山　恵美子
所在地	〒604－8434 京都市中京区西ノ京新建町３番地
電話	０７５－８０３－１７３９
ＦＡＸ	０７５－８０３－１７３８
事業内容	○盲養護老人ホーム５０名 ○特別養護老人ホーム６５名（７ユニット） ○短期入所生活介護９名 ○通所介護　定員３０名 ○居宅介護支援　○訪問介護

特別養護老人ホームライトハウス朱雀は、社会福祉法人京都ライトハウスが運営する、高齢者総合福祉施設の中の一施設として、平成２８年６月１日に京都市中京区朱雀の地に開設致しました。建物は５階建てで、併設している事業は、盲養護老人ホーム、通所介護、短期入所、訪問介護、居宅介護支援です。また、１階には地域に開放した喫茶「わくわく」もございます。

京都ライトハウスは、視覚障害者総合福祉施設として、お子さんからお年寄りまで、視覚に障害のある方の支援を幅広く行っています。その中で高齢部門は、昭和４９年開設の盲養護老人ホーム船岡寮のみでした。しかし、築年数が経つにつれて、老朽化や狭隘さにより、プライバシーへの配慮や利用者の介護ニーズの増大への対応が困難になり、視覚障害高齢者が、より幸せに暮らして頂ける施設の建設を目指して、法人として取り組んできた経緯があります。その中で多くの方にご尽力やお力添えを頂き、こうして移転、新築の夢がようやく叶った次第です。今後は、この新たな施設に魂を吹き込むように職員一同が研鑽に励み、日々利用者の皆さまの笑顔があふれるような、より良い施設づくりを行います。また、地域の皆さまと共につながれるような取り組みにも、積極的に取り組んで参ります。

これからも何卒、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

地域密着型特別養護老人ホーム 向島美郷

楽しい思い出作りをお手伝いします

特別養護老人ホーム 向島美郷
施設長　始田（はじめだ）　知大（ともひろ）

＜施設概要＞

法人名	美　郷　会
施設長	始田　知大
管理者	始田　知大
所在地	〒612－8134 京都市伏見区向島清水町 189 番１号
電話	０７５－６０６－２２９９
ＦＡＸ	０７５－６０６－２３６６
事業内容	○地域密着型特別養護老人ホーム 29 名 （３ユニット） ○短期入所生活介護 ２０名（２ユニット） ○デイサービス 定員 50 名 ○小規模多機能型居宅介護 登録定員 25 名 ○サービス付き高齢者向け住宅 80 室 ○訪問介護　○居宅介護支援

当施設は、平成 28 年２月１日に伏見区向島清水町にて、様々なサービスを併設した『高齢者複合施設 向島美郷』として新規開設しました。ご相談される方の内容に応じて、柔軟かつ適切なサービスを提供し、地域を包括的にご支援することを設置目的としています。

当施設の特長は、常に介護を必要とする方を対象とした特別養護老人ホームと、お元気な方を対象とした高齢者向け住宅の２つの居住施設を中心に、短期入所やデイサービス、小規模多機能型居宅介護、訪問介護、居宅介護支援といった在宅の介護サービスを複数併設していることです。

特に高齢者向け住宅は、「介護は必要ないけれど一人暮らしが不安」、「自宅に閉じこもりがちで・・」などといった方々にぜひご入居いただき、お元気な今だからこそ、当施設で新しい仲間との楽しい思い出作りをお手伝いさせていただければと考えています。

当法人は、枚方市北部を拠点に、急性期医療から介護施設、在宅サービスに至るまで、幅広く地域のニーズに応じてきました。この向島美郷においても、少しでも当施設が地域に貢献できるよう、明るく開かれた、頼りになる施設を目指してまいりたいと考えています。

今後ともご指導の程、宜しくお願い申し上げます。